

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人 中央情報学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	A I プロジェクト学科	夜・通信	216時間	160時間	
	I T ・ W e b 学科	夜・通信	216時間	160時間	
商業実務専門課程	ビジネスデザイン学科	夜・通信	216時間	160時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.ccmc.ac.jp/school/information/">https://www.ccmc.ac.jp/school/information/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人 中央情報学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ccmc.ac.jp/school/information/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	税理士	2023. 6. 1～ 2025. 5. 31	組織運営体制への チェック機能、財務
非常勤	会社員	2023. 6. 1～ 2025. 5. 31	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人 中央情報学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各学科共通</p> <p>【作成について】</p> <p>例年開催される第 1 回教育課程編成委員会(通常 8 月)での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第 2 回教育課程編成委員会(通常 3 月)における、翌年度教育課程の検討を経て、3 月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を 3 月の教務会議にて決定する。</p> <p>各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で 3 月に作成し、教務会議に提出する。</p> <p>教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4 月に公開の決定し、ホームページ担当者にその指示を出す。</p> <p>【作成・公表時期】</p> <p>新年度の授業開始前(例年 4 月 10 日ごろ)</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://ccmc.ac.jp/school/information/">https://ccmc.ac.jp/school/information/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の学修成果は、各授業担当教員が、シラバスで公開した評価方法で、平常点と定期試験により 100 点満点で採点し、A (90 点以上)、B (75 点以上)、C (60 点以上)、D (50 点以上)、F (50 点未満) の 5 段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価する。</p> <p>学則第 19 条により、A、B、C、D は合格とし、F は不合格とする。</p> <p>毎年度末に、GPA の算出と分布状況を確認するとともに、進級判定会議、卒業判定会議において、全学生について、出席率が 80%以上で、成績が取得すべき単位の 80%以上合格している学生に対し、学則第 20 条により、校長が課程修了の認定を行う。</p> <p>学則、シラバスは学校HPにて公開している。</p> <p>上記、学修成果の評価方法、進級・卒業の認定について、入学時オリエンテーション、後期オリエンテーション、進級時オリエンテーションで全学生に説明し、周知徹底している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)          本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA(Grade Point Average)制度を導入している。          (「GPA(Grade Point Average)による成績評価」をHPにて公開)          各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、平常点と定期試験により100点満点で採点し、A(90点以上)、B(75点以上)、C(60点以上)、D(50点以上)、F(50点未満)の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。          各学生の履修科目の成績を、A(4)、B(3)、C(2)、D(1)、F(0)のグレード・ポイント(GP)に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。          この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立てるように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://ccmc.ac.jp/school/information/">https://ccmc.ac.jp/school/information/</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)          当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスを生み出す、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。          所定の課程を修了したものは、教育目標である          &lt;1&gt;産業界が求める専門知識、専門スキルの修得          &lt;2&gt;学び方を学ぶ          &lt;3&gt;コミュニケーション能力の育成と人間的成長          &lt;4&gt;アイデアをデザインに、デザインを形にできる能力の育成          &lt;5&gt;希望者全員の就職          を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。          学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。          当校ではディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を策定し、HPに公開している。          この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p><a href="https://ccmc.ac.jp/school/information/">https://ccmc.ac.jp/school/information/</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人中央情報学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://ccmc.ac.jp/school/information/">https://ccmc.ac.jp/school/information/</a>
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

## 2. 教育活動に係る情報

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	AIプロジェクト学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1, 728単位時間	1368 単位時間		360 単位時間		
			1, 728単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		25人	25人	2人	0人	2人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>例年開催される第1回教育課程編成委員会(通常8月)での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第2回教育課程編成委員会(通常3月)における、翌年度教育課程の検討を経て、3月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を3月の教務会議にて決定する。</p> <p>各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で3月に作成し、教務会議に提出する。</p> <p>教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4月に公開の決定し、ホームページ担当者によるその指示を出す。</p> <p><b>【作成・公表時期】</b> 新年度の授業開始前(通常4月10日ごろ)</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA(Grade Point Average)制度を導入している。 (「GPA(Grade Point Average)による成績評価」をHPにて公開)</p> <p>各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、平常点と定期試験により100点満点で採点し、A(90点以上)、B(75点以上)、C(60点以上)、D(50点以上)、F(50点未満)の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。</p> <p>各学生の履修科目の成績を、A(4)、B(3)、C(2)、D(1)、F(0)のグレード・ポイント(GP)に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。</p> <p>この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立てるように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>
卒業・進級の認定基準

(概要)  
 当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスを生み出す、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。  
 所定の課程を修了したものは、教育目標である  
 <1>産業界が求める専門知識、専門スキルの修得  
 <2>学び方を学ぶ  
 <3>コミュニケーション能力の育成と人間的成長  
 <4>アイデアをデザインに、デザインを形にできる能力の育成  
 <5>希望者全員の就職  
 を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。  
 学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。  
 当校ではディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）を策定し、HPに公開している。  
 この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。

学修支援等

(概要)  
 産学連携を重視し、企業からの講師による業界や企業が求める人材ニーズとそのために必要な知識・スキルを、学生が目的を持って学べるように設定している。授業は、理解度を測定しながら、学生の進度にあった内容で行っている。授業時間外で、学生が自主的に学べるように、eラーニング等を活用するとともに、コンテスト等に参加して、スキル向上のための取組みを行っている。学業成績優秀者には、表彰、学校奨学金、資格取得奨励金などにより支援している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	9人 (81.8%)	2人 (18.2%)

(主な就職、業界等)  
 三信 ASE 株式会社、株式会社ハイシングジャパン、未来アジア共同組合など

(就職指導内容)  
 毎月実施している学内での企業説明会・面接会、インターンシップ等を通して、学生一人ひとりの就職に対して、進路指導担当をはじめ全教職員が様々な角度から本人の長所を拾い上げ、適性人材として求人企業とのマッチングを行っている。

(主な学修成果（資格・検定等）)  
 TechFUL コーディングコンテスト、IT パスポート、G 検定、Java プログラミング能力認定試験、実践プログラミング技術者試験、AWS クラウドプラクティショナー認定、共通クラウド技術検定試験、情報活用試験、日本語能力試験他

(備考) (任意記載事項)  
 2024年02月 プレゼンテーショングランプリ大会（朝霞市民会館）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
(中途退学の主な理由) 就職のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および生活指導担当者が面談し、教職員全体で親身になって進路・生活相談にのる。		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		専門課程	I T ・ W e b 学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1, 7 2 8 単位時間	1 0 0 8 単位時間		7 2 0 単位時間	
			1, 7 2 8 単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
1 8 0 人		1 7 3 人	1 5 1 人	8 人	2 人	1 0 人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p><b>【作成について】</b>  例年開催される第1回教育課程編成委員会(通常8月)での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第2回教育課程編成委員会(通常3月)における、翌年度教育課程の検討を経て、3月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を3月の教務会議にて決定する。</p> <p>各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で3月に作成し、教務会議に提出する。</p> <p>教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4月に公開の決定し、ホームページ担当者にその指示を出す。</p> <p><b>【作成・公表時期】</b>  新年度の授業開始前(通常4月10日ごろ)</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA(Grade Point Average)制度を導入している。  (「GPA(Grade Point Average)による成績評価」をHPにて公開)</p> <p>各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、平常点と定期試験により100点満点で採点し、A(90点以上)、B(75点以上)、C(60点以上)、D(50点以上)、F(50点未満)の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。</p> <p>各学生の履修科目の成績を、A(4)、B(3)、C(2)、D(1)、F(0)のグレード・ポイント(GP)に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。</p> <p>この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立つように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>
卒業・進級の認定基準

(概要)  
 当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスを生み出す、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。  
 所定の課程を修了したものは、教育目標である  
 <1>産業界が求める専門知識、専門スキルの修得  
 <2>学び方を学ぶ  
 <3>コミュニケーション能力の育成と人間的成長  
 <4>アイデアをデザインに、デザインを形にできる能力の育成  
 <5>希望者全員の就職  
 を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。  
 学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。  
 当校ではディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を策定し、HPに公開している。  
 この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。

学修支援等  
 (概要)  
 産学連携を重視し、企業からの講師による業界や企業が求める人材ニーズとそのために必要な知識・スキルを、学生が目的を持って学べるように設定している。授業は、理解度を測定しながら、学生の進度にあった内容で行っている。授業時間外で、学生が自主的に学べるように、eラーニング等を活用するとともに、コンテスト等に参加して、スキル向上のための取組みを行っている。学業成績優秀者には、表彰、学校奨学金、資格取得奨励金などにより支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
93人 (100%)	2人 (2.2%)	65人 (69.9%)	26人 (28.0%)
(主な就職、業界等) AGS 株式会社、株式会社ワールドインテック、株式会社ダブルスタンダード、ブライザ株式会社、GEL 研究所 株式会社、株式会社メイテックフィルダーズ、株式会社ミライト・モバイル・イースト、DJI 株式会社など			
(就職指導内容) 毎月実施している学内での企業説明会・面接会、インターンシップ等を通して、学生一人ひとりの就職に対して、進路指導担当をはじめ全教職員が様々な角度から本人の長所を拾い上げ、適性人材として求人企業とのマッチングを行っている。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) Microsoft Certified: Azure Fundamentals、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、Java プログラミング能力認定試験、Python 3 エンジニア認定基礎試験、Python 3 エンジニア認定データ分析試験、PHP8 技術者認定初級試験、Linux レベル1、共通クラウド技術検定試験			

(備考) (任意記載事項)  
2024年2月プレゼンテーション大会(朝霞市民会館ゆめばれす)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
181人	12人	6.6%
(中途退学の主な理由) 就職、留学生の帰国のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および生活指導担当者が面談し、教職員全体で親身になって生活相談にのる。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネスデザイン 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1, 728 単位時間	1368 単位時間		360 単位時間		
			1, 728 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		119人	119人	5人	1人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(概要)</p> <p><b>【作成について】</b></p> <p>例年開催される第1回教育課程編成委員会(通常8月)での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第2回教育課程編成委員会(通常3月)における、翌年度教育課程の検討を経て、3月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を3月の教務会議にて決定する。</p> <p>各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で3月に作成し、教務会議に提出する。</p> <p>教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4月に公開の決定し、ホームページ担当者による指示を出す。</p> <p><b>【作成・公表時期】</b></p> <p>新年度の授業開始前(例年4月10日ごろ)</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA(Grade Point Average)制度を導入している。 (「GPA(Grade Point Average)による成績評価」をHPにて公開)</p> <p>各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、平常点と定期試験により100点満点で採点し、A(90点以上)、B(75点以上)、C(60点以上)、D(50点以上)、F(50点未満)の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。</p> <p>各学生の履修科目の成績を、A(4)、B(3)、C(2)、D(1)、F(0)のグレード・ポイント(GP)に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。</p> <p>この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立てるように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>	
卒業・進級の認定基準	

(概要)  
 当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスを生み出す、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。  
 所定の課程を修了したものは、教育目標である  
 <1>産業界が求める専門知識、専門スキルの修得  
 <2>学び方を学ぶ  
 <3>コミュニケーション能力の育成と人間的成長  
 <4>アイデアをデザインに、デザインを形にできる能力の育成  
 <5>希望者全員の就職  
 を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。  
 学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。  
 当校ではディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）を策定し、HPに公開している。  
 この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。

学修支援等

(概要)  
 産学連携を重視し、企業からの講師による業界や企業が求める人材ニーズとそのために必要な知識・スキルを、学生が目的を持って学べるように設定している。授業は、理解度を測定しながら、学生の進度にあった内容で行っている。授業時間外で、学生が自主的に学べるように、eラーニング等を活用するとともに、コンテスト等に参加して、スキル向上のための取組みを行っている。学業成績優秀者には、表彰、学校奨学金、資格取得奨励金などにより支援している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
76人 (100%)	4人 (5.3%)	64人 (84.2%)	8人 (10.5%)

(主な就職、業界等)  
 大手企業、株式会社リロググループ、株式会社DDホールディングス、株式会社ハイデイ日高、株式会社ゼンショーホールディングス、アークランドサービスホールディングス株式会社、株式会社関東東急ホテルズ、株式会社ホテル銀水荘など。

(就職指導内容)  
 毎月実施している学内での企業説明会・面接会、インターンシップ等を通して、学生一人ひとりの就職に対して、進路指導担当をはじめ全教職員が様々な角度から本人の長所を拾い上げ、適性人材として求人企業とのマッチングを行っている。

(主な学修成果（資格・検定等）)  
 サービス接客検定、秘書検定、ビジネス実務マナー検定、日商簿記検定、文書デザイン検定、情報処理技能検定 表計算、日本語能力試験、外国人雇用管理主任者、プロモーションプランナー、プロモーションプロデューサー他

(備考)（任意記載事項）  
 2023年09月就職特別講座（学内）  
 2024年02月プレゼンテーショングランプリ大会（朝霞市民会館 ゆめぱれす）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
137人	4人	2.9%
(中途退学の主な理由) 結婚・出産、経済的理由のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および生活指導担当者が面談し、教職員全体で親身になって生活相談にのる。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
AI プロジェクト学科	100,000 円	480,000 円	280,000 円	実習費、施設設備費
IT・Web 学科				
ビジネスデザイン学科				
修学支援 (任意記載事項)				
学校独自の学費減免制度、奨学金制度あり。 学業成績優秀者への表彰、資格取得奨励金制度等の学修支援制度あり。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
<a href="https://ccmc.ac.jp/school/information/">https://ccmc.ac.jp/school/information/</a>
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>①「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省：平成25年3月)及び「学校法人中央情報学園における学校評価に関する要綱」(学校法人中央情報学園：平成24年6月1日)に基づいた評価項目による評価を行う。 (具体的な評価項目)</p> <p>(1) 教育理念・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>● 学校における職業教育の特色は何か</li> <li>● 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>● 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか</li> <li>● 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか</li> </ul> <p>(2) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>● 運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>● 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>● 人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>● 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか</li> <li>● 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>● 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>● 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul> <p>(3) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか</li> <li>● 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>● 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>● キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工</li> </ul>

夫・開発などが実施されているか

- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
  - 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
  - 授業評価の実施・評価体制はあるか
  - 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
  - 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
  - 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
  - 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
  - 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
  - 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
  - 職員の能力開発のための研修などが行われているか
- (4) 学修成果
- 就職率の向上が図られているか
  - 資格取得率の向上が図られているか
  - 退学率の低減が図られているか
  - 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
  - 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
- (5) 学生支援
- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
  - 学生相談に関する体制は整備されているか
  - 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
  - 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
  - 課外活動に対する支援体制は整備されているか
  - 学生の生活環境への支援は行われているか
  - 保護者と適切に連携しているか
  - 卒業生への支援体制はあるか
  - 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
  - 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
- (6) 教育環境
- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
  - 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
  - 防災に対する体制は整備されているか
- (7) 学生の受入れ募集
- 学生募集活動は適正に行われているか
  - 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
  - 学納金は妥当なものとなっているか
- (8) 財務
- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
  - 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
  - 財務について会計監査が適正に行われているか



<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>												
<p>(9) 法令等の遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>● 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>● 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>● 自己評価結果を公開しているか</li> </ul>												
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>● 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>● 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>												
<p>(11) 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか</li> <li>● 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>● 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>● 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>												
<p>②評価委員会の構成</p> <p>学校関係者評価委員会は、業界団体・企業からの委員、高等学校の役職員またはその経験者から委員を選任し（定数3人以上）、毎年8月に開催し、3名以上の委員の参加による学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価報告書をもとに学校評価を行う。</p>												
<p>③評価結果の活用方法</p> <p>学校関係者評価委員会の学校運営に関する改善のための評価、助言をもとに、学校関係者評価報告書をホームページにてその内容を公開するとともに、学校長のもと、改善提案の実施方法、実施時期を8月の校務運営会議で検討する。すぐに改善できる内容は、9月から実施し、さらに検討が必要なものは、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善で反映させる。</p>												
<p>学校関係者評価の委員</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パシフィック・システム株式会社 上席執行役員</td> <td>2024年4月1日～ 2025年3月31日</td> <td>地元企業</td> </tr> <tr> <td>埼玉県立大宮工業高校 元校長 公益社団法人全国工業高等学校協会 名誉会員</td> <td>2024年4月1日～ 2025年3月31日</td> <td>高校</td> </tr> <tr> <td>S Kオフィス 代表 富士通エフ・アイ・ピー・システム ズ株式会社 元社長</td> <td>2024年4月1日～ 2025年3月31日</td> <td>企業</td> </tr> </tbody> </table>	所属	任期	種別	パシフィック・システム株式会社 上席執行役員	2024年4月1日～ 2025年3月31日	地元企業	埼玉県立大宮工業高校 元校長 公益社団法人全国工業高等学校協会 名誉会員	2024年4月1日～ 2025年3月31日	高校	S Kオフィス 代表 富士通エフ・アイ・ピー・システム ズ株式会社 元社長	2024年4月1日～ 2025年3月31日	企業
所属	任期	種別										
パシフィック・システム株式会社 上席執行役員	2024年4月1日～ 2025年3月31日	地元企業										
埼玉県立大宮工業高校 元校長 公益社団法人全国工業高等学校協会 名誉会員	2024年4月1日～ 2025年3月31日	高校										
S Kオフィス 代表 富士通エフ・アイ・ピー・システム ズ株式会社 元社長	2024年4月1日～ 2025年3月31日	企業										
<p>学校関係者評価結果の公表方法</p> <p><a href="https://ccmc.ac.jp/school/information/">https://ccmc.ac.jp/school/information/</a></p>												
<p>第三者による学校評価（任意記載事項）</p>												



c) 当該学校に係る情報

<https://ccmc.ac.jp/school/information/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H111323000014
学校名 (〇〇大学 等)	中央情報専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人中央情報学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。